

会 議 録

1 会議名

平成30年度 第3回金谷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）平成30年度地域活動支援事業について（公開）

3 開催日時

平成30年5月24日（木） 午後2時58分から午後7時43分まで

4 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員：高宮宏一（会長）、川住健作（副会長）、村田敏昭（副会長）、伊崎博幸、石野伸二、伊藤三重子、牛木喜九、桑山敏男、齋藤邦博、高橋敏光、竹内恵市、土屋博幸、永野起男、西条聖士、山口茂幸、吉村清正
- ・事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、佐藤係長、小林主任

8 発言の内容

【小林主任】

- ・16名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・同条例第8条第1項の規定により、議長は高宮会長が務めることを報告

【高宮会長】

- ・会議の開会を宣言
- ・会議録の確認：山口委員、吉村委員に依頼

—次第2議題等の確認—

【高宮会長】

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明。

【高宮会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

一次第3議題（1）平成30年度地域活動支援事業について—

【高宮会長】

次第3議題（1）「平成30年度地域活動支援事業について」に入る。

本日は提案があった事業について、提案者の事業説明と質疑応答、共通審査のあと、採択事業と補助額の検討、決定までを行う。

正副会長は審査に加わるため、事務局が会の進行を行うことを諮り、委員全員の了承を得る。

【佐藤センター長】

基本審査で不採択となった事業を除く提案状況は、予算配分枠850万円に対して、提案事業11件、補助希望額計951万5千円、差額101万5千円予算を超過した状態となっている。

審査の流れについて、事業提案者による事業説明5分以内、質疑応答10分以内、委員による採点2分以内。「共通審査・採点シート」は、全ての事業の採点が終わった後、まとめて回収し集計を行う。なお、シートの回収前に、採点結果を見直す時間を5分程度設ける。審査の所要時間は3時間程度である。

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

審査、採点を始める。

整理No.2「正善寺ダム周辺の紫陽花の維持管理及び水質保全と環境美化事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

事業概要に基づき説明

【佐藤センター長】

提案者の説明について質疑を求める。

【高橋委員】

皆さんの活動の努力は評価している。

ここ5～6年花の見栄えがよくない。花の大きさが小さい。株が10センチ、細いものでも5センチくらい太くなっており、老化してきて花がうまくない。そのせいで花が小さいのか、そちらで剪定の仕方を間違えて花つぼみがうまくいかないため小さいのか、肥料が足りないのか、その辺を聞きたい。というのは、見学に行った方から「あの程度のものだった」とあまりよい評判がないため、教えてもらいたい。

【提案者】

植え初めのころと比べ、花が小振りになったのもあるし、元々小さい種類もある。土地が痩せてきたのか、色合いが薄くなったりしているため、追肥などはしているが、一度に全部できない事情もあり、徐々に追肥や剪定、根元の方から太いのを切ったりしているところ。本当は1番目立つ駐車場周辺から順番にしていけばよいが、なかなかメンバーが揃わない。今年は計画的にしようということで、挿し木も考えている。

【高橋委員】

頑張ってもらいたい。

【石野委員】

花が終わった後剪定があるが、今ダムサイドの上の方は、アジサイの背丈が非常に大きくなり生垣のような感じになっている。一車線しかないところで、片方が崖、山であるため、車が走行する際見にくい。対向車が発見できなくなっているため、背丈をある程度カットしてほしい。

【提案者】

カットはしているが、新芽が出ると急に伸びてしまうため、冬囲いの時に胸くら

いの高さまで切る。

【石野委員】

もっと切ってもよいと思う。

【提案者】

ガードレールから出ないように剪定している。山側から側溝に泥などが落ちてきて、水で泥が押され側溝が流れなくなって溢れているため、去年、一昨年辺りから、市の方に側溝の泥さらいなどもお願いしている。気を付けたい。元々狭いところではあるのだが。

【石野委員】

交通量も結構ある。

【提案者】

見に来て、通る方が多い。事故があっては大変である。

【石野委員】

ぶつかってダムサイドに落ちたら、そのままダムに落ちていってしまう。

【山口委員】

16人で活動されているが、その他にボランティアの参加など、全体でどのくらいの口数がかかっているか。

【提案者】

延べ80人くらい。年8回くらい予定があり、平均10人くらいの参加。町内会の方から草刈りを手伝ってもらったり、子ども会のお子さんと花を摘んだり、協力してもらっている。

【川住副会長】

アジサイは種類がたくさんあると思う。ある程度有名にするために、色々な種類を植えるような工夫などはしているか。

【提案者】

25年くらい前、下正善寺辺りからあじさいロードを作った時に植えた。花が咲いた時に植えたわけではないため、何の種類かは咲いてみなければ分からなかった。それでも4種類くらいはある。色は青が多く、赤っぽいのが少ない。肥料をあげる

が、草ばかり伸びるため肥料は控えた。挿し木で違う種類も植えることを考えたい。

【川住副会長】

アジサイは挿し木で簡単に増やせる。珍しいものもすぐに成長する木であるため、特色を。あじさいロードも青だけではなく、色々なものを工夫してもらいたい。

【石野委員】

アジサイの花の色は酸性かアルカリ性かによって違ってくる。石灰を使ってどのようにコントロールするか、皆さんで勉強して色々してもらいたい。

【提案者】

変わらない。元々の土の性質がある。たまに石灰をあげるなどしていたが、去年あたりからメンバーの家の鉢植えでそういった試験をしており、紫に近い真っ赤な花ができたりしている。実際に地面に植えてはいないが、鉢植えで行っている最中である。

【桑山委員】

アジサイは、1度挿し木をした後、何年くらいで次の世代に変える計画か。

【提案者】

25年くらい前に行って以降、徐々に枯れていったり、太くなったら剪定したりしている。挿し木は最近になってようやく始めており、頻繁にはできない。そのため、植えた時に比べて色が薄くなったり抜けてきたりして、景観が悪くなった。

【桑山委員】

大幅に挿し木を。挿し木は相当成長するため、計画的にすれば景観も変わる。

【土屋委員】

ライトアップが地域の活性化に貢献とあるが、どう活性化したのか。

【提案者】

ライトアップをしたら、夜に見に来る方が増えた。それまでは、駐車場で帰っていた。午後7時半くらいからライトアップするが、駐車場から湖畔橋までの800メートルを歩いて来る方がいた。

【佐藤センター長】

質疑を終了。

— 提案者退席 —

採点を委員に依頼。

— 共通審査・採点シート 記入 —

整理No.2「正善寺ダム周辺の紫陽花の維持管理及び水質保全と環境美化事業」の採点を終了。

続いて整理No.3「金谷区全域の防犯灯のLED化による住民の安全安心事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

事業概要に基づき説明。

【佐藤センター長】

提案者の説明について、質疑を求めるがなし。

質疑を終了。

— 提案者退席 —

採点を委員に依頼。

— 共通審査・採点シート 記入 —

整理No.3「金谷区全域の防犯灯のLED化による住民の安全安心事業」の採点を終了。

続いて整理No.5「里道（旧後谷線）の整備事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者1】

事業概要に基づき説明。

【佐藤センター長】

提案者の説明について、質疑を求める。

【齋藤委員】

昨年も今年と同じような整備をされた。今年も整備を続けるということだが、来年もあるのか。

【提案者1】

来年については、1年目、2年目にした保全整備と修復点検の費用を考えている。

日本スキー発祥の地は金谷山だが、滑降大会のスタート地点、コースは里道となっている。そういう説明看板や、黒田城塁の説明看板の設置を考えている。

【齋藤委員】

ルートはこれで完成ということか。

【提案者1】

後谷から塩荷谷、儀明、宇津尾、正善寺まで繋ぐ。籠町南葉、青田難波から繋ぐ。色々な事ができるため、わくわくしている。平成の大事業で終わりたい。

【齋藤委員】

全部完成してから、お客さんに入ってもらえるような部分も確保してもらいたい。また、来年の話かもしれないが、休憩場などもルートができてからアイデアを出し、良くなるように完成してもらいたい。

【吉村委員】

維持管理はある限りずっと続くと思うが、階段など設備的なものは何年くらいで完了になるのか。今回で完了ということは有り得ないだろう。例えば、向こう5年を見据えているなど、そういった計画はあるか。

【提案者1】

林道口に一番の急勾配がある。来年はそこを数段計画している。

【提案者2】

林道口の出口と言った方が表現がよい。

【吉村委員】

それで当面の設備工事というのは完了ということか。

【提案者1】

そのとおり。

【吉村委員】

補助金の割り振りの関係で、この規模をサイズダウンすることは可能か。希望額どおりでない中途半端で工事にならないと言われると、考えなければならない。

【提案者1】

希望額どおりいただきたいと思っているが、もし削れということになれば、冊子

の4ページを2ページにするなど、そういったところで落とす。他には、整備活動
を無償で参加してもらうくらいしかない。

【吉村委員】

分かった。近隣町内への設備の啓発活動を徹底してもらいたい。私も近隣住人の
1人である。

【桑山委員】

3年計画や5年計画など、基本的な計画はあるか。

【提案者2】

整備的な計画は3年。昨年した中で、今年、来年と3年くらいはかかるだろうと
考えている。それを一気にしようとする、かなりの金額になる。要求額が増えれ
ば、それなりの負担を地域協議会にかけるため、一応3年。ただ、途中自然災害な
どで崩壊したとなれば、別の問題となる。

【土屋委員】

9月、10月開催予定の学習会は、講師を招いて現地にて里山自然学習会とある
が、講師の目途はついているのか。

【提案者1】

何十年来そこを生活ゾーンとして通っていた、支援団体でもある後谷会の皆さん
から、牛の通り場や植物の名前などを交えながら、作成したパンフレットに従って
の学習会を計画している。

【土屋委員】

遠いところから来るのではなく、地元の方が講師となるのか。

【提案者1】

そのとおり。上越妙高駅にでも置かれるようになれば、全国デビューすることが
できるのだが。言い忘れたが、擬木を設置した道の両端に、カタクリの群生が本当
にきれいに茂っていた。

【佐藤センター長】

質疑を終了。

— 提案者退席 —

採点を委員に依頼。

— 共通審査・採点シート 記入 —

整理No.5「里道（旧後谷線）の整備事業」の採点を終了。

続いて整理No.11「幼年野球活性化事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

事業概要に基づき説明。

【佐藤センター長】

提案者の説明について、質疑を求める。

【吉村委員】

サンドボールというのは何か。

【提案者】

サンドボールは、ビニールに砂が入っている野球のボールで、主にバッティングの練習をする時に使う。狭い室内や、例えば野球の大会に行った時にその場でできる、打っても飛ばないボールのことである。

【石野委員】

帽子18個は新しく入る児童の分か。

【提案者】

今いるメンバーの分と、今後入団した時に入団の品として活用したい。以前も渡したことはあった。

【石野委員】

これは貸出しではなく、与えるのか。

【提案者】

できればそうしたい。土日練習して大会があると、2～3か月で色が褪せてしまうため、1個目は入団した時に渡し、2個目以降は保護者の実費になる。

【石野委員】

色の褪せない、もう少しよいものはないか。

【提案者】

そうすると単価が高くなってしまう。

【永野委員】

クーラーボックスは新しいものを買うのか。もちろん暑い時は必要だと思うが、何か代用できるものは考えたのか。

【提案者】

今現在もクーラーボックスは大きいものと小さいもので3、4つ持っている。真夏になると熱中症等の心配もあるため、練習の時と大会の時にどうしても必要になるが、重くなってしまう。今回提案したのは引っ張れるタイプのもの。飲み物の他に、子ども達のピッチャー、キャッチャー3、4名分のアイシングという道具を冷やすためにも必要である。

【西条委員】

最近子どもが少なくなってきて、スポーツも多様化してきているが、構成員45名というのは、こういったチームでは多い方なのか。

【提案者】

この人数は保護者や理事など、諸々入っている人数である。子ども達は14名となる。

【西条委員】

今年は何名入団したのか。

【提案者】

今年入ったのは1名。予備軍が2、3名いる。

【高橋委員】

「幼年野球活性化事業」とあるが、話を聞くと活性化ではないのではないか。構成人数45名で、帽子18個、クーラーボックス、サンドボールというのが活性化にどう繋がるのか。帽子は個人的なものになる。他の幼年野球のチームで補助金を出しているのは、対外試合に父兄も付いて行かなければならない場合、費用がかかるということで多少出してあげている地域もある。物品を買うというのはあまり記憶にない。それと活性化がどう繋がるのか説明してもらいたい。

【提案者】

初めて帽子を提案している。個人の所有物にはなるが、子どもが少なくなってき

ている中で、入団する時の保護者の負担が大きい、保護者が付き添いで行かなければならないなど、いくら声をかけても幼年野球に入る子どもが減ってきている。それはどこも一緒だが、「入ってくれてありがとう」という部分で、そういったものがあるとよい。活性化という部分では、金銭面の負担を少なくすることで、保護者が足踏みしてしまうのを取り除く。

【齋藤委員】

キャップの購入だが、ヘルメットを昨年買った。ヘルメットも十数個か。ヘルメットはそんなに要らないのではないか。

【提案者】

一塁や三塁のコーチ用もある。

【齋藤委員】

帽子は結構よい値段で18個ある。「スナイパーズ」など、特別な刺繍をするのか。

【提案者】

そのとおり。ユニフォームに合わせた帽子である。

【齋藤委員】

ユニフォームは去年買ったものか。

【提案者】

そのとおり。モチベーションがすごく上がって、子どもも喜んでいる。

【齋藤委員】

去年は帽子を忘れてしまったのか。帽子がなく、自分たち個人の帽子では格好が付かない。もう少し値段を落として数を増やせないか。卒業生の帽子は汗にまみれて汚れてしまって、次の新入生は嫌だろう。ストックせず、遠慮しないで出してあげたらどうか。クーラーボックスは、野球にしろ何にしろ、暑さを考えると必要だと思う。

【伊崎委員】

私も小中高と野球をしていたため、ぜひとも応援したいという気持ちはある。

日々の練習は、ユニフォームを着て練習しているのか、それとも運動しやすい格

好で練習しているのか、どちらか。

【提案者】

練習は、個人の練習着で行っている。チームの古くなっているものを借りたいという子には貸している。練習試合になった場合はユニフォームを活用している。

【伊崎委員】

私も帽子のところが引っ掛かっている。練習の時は今回提案されている帽子ではなく、日よけ防止なら何でもよいと思う。そういった工夫はされているのか。

【提案者】

練習の時は色褪せている帽子を使っている。あとは個人で持っているものや、チームに全く関係ないものを使用している。

【伊崎委員】

今回の金額のもので、もし買ったとしたら、試合や練習試合だけで使ってほしい。

【提案者】

帽子も引退したら返してもらおう。

【高橋委員】

1回使ったものではだめだろう。

【佐藤センター長】

質疑を終了。

— 提案者退席 —

採点を委員に依頼。

— 共通審査・採点シート 記入 —

整理No.1 1 「幼年野球活性化事業」の採点を終了。

続いて整理No.1 2 「灰塚地区地域安全見守り事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

事業概要に基づき説明。

【佐藤センター長】

提案者の説明について、質疑を求める。

【高橋委員】

特別なチョッキと帽子があるのか。全国的には、「オレンジキャップ隊」など、だいたいオレンジと名前が付いている。また、黒田小学校区だけというのが疑問である。

【提案者】

高田西小学校には完全に揃っており、飯小学校にもある。

【高橋委員】

それは飯地区の防犯協会が皆用意した。学校が用意したわけではない。毎年足りないものを足していき、今現在足りてきている。のぼり旗も、防犯協会の会費から毎年積み立て、今間に合ってきている。のぼり旗は全然用意していないのか。

【提案者】

のぼり旗については、市からいただいたものを。

【高橋委員】

市からのものでは足りないだろう。

【提案者】

足りない。あとはなんとかもらってきている。

また、カタログの中で最も目立つものをと考えた。特別なものを作ろうという訳ではない。

【竹内委員】

防犯協会としては、ベストを買い、PTAの実際活動する人に貸与するというとか。その任務を防犯協会がするというとか。

【提案者】

防犯協会では予算は多少あるが、これ以外にも大きい看板を作るなど色々しているため、ここまでは手が回らない状況である。

【高橋委員】

昨年の決算では37万円残っている。財政的に余裕があるのではないかと。

【提案者】

会計については分からないが、看板を作るにも1枚7万円かかる。それに使う費

用も含まれていると思う。

【佐藤センター長】

質疑を終了。

— 提案者退席 —

採点を委員に依頼。

— 共通審査・採点シート 記入 —

整理No.1 2「灰塚地区地域安全見守り事業」の採点を終了。

続いて整理No.1 3「金谷山太鼓 継承・振興事業」について、提案者に説明を求め
る。

【提案者】

事業概要に基づき説明。

【佐藤センター長】

提案者の説明について、質疑を求める。

【石野委員】

予算のことだが、宮太鼓1台修理で16万3,000円とあるが、去年は宮太鼓、
締太鼓各1台の修理で同じように16万3,000円ほどかかっている。これは宮
太鼓が去年よりも大きいために費用が倍かかるということか。

【提案者】

計画的に修理している。

【石野委員】

去年は2台だったが、今回は1台で同じ金額になっているため、それが分からな
い。

【提案者】

見積りを取っている。皮の張り替えが1台11万円になる。

【石野委員】

和太鼓、締太鼓、樽太鼓、総台数は何台あるのか。

【提案者】

数の資料が手元にないが、児童は60名ほどで、全員が参加している。のぼり旗

を4名ほどが持っていて、長い竹を叩いている子もいるため、樽太鼓と和太鼓を合わせて40台弱だと思う。そして60人が参加する。正確な数を今持ち合わせていないため答えられない。

【石野委員】

ということは、昨年と今年で全ての修理が終わるということか。

【提案者】

そのとおり。

【石野委員】

4～5年くらいもつのか。毎年修理というわけにはいかない。

【提案者】

樽太鼓の方は、業者が大工で、劣化してくるためある程度したら買い替えも考えなくてはいけない。木が乾いて弱くなるため、長期的な展望で、継続するなら買い替えと修理を重ねていくと、建築業者から聞いている。詳しいことは説明できない。

【川住副会長】

去年の実績と今年の提案を見ると、テント以外は同じである。そうすると、毎年こういったものが提案されてくるのか。

【提案者】

後援会からの予算立てがあり、バチや、チャンチキ、衣装などの買替えはこちらでしている。今のところの見通しとしては、継続的に太鼓の買替えと修理を重ねていくということ。

【川住副会長】

毎年23万7,000円。きちんと、何台壊れたため何台必要というような提案がよい。全く同じだと、実績でなく予想で積算しているようなイメージを受ける。

【提案者】

了解した。見積りについては、昨年の内容を基に今年も出してもらった。これから実際修理をしてもらう時に、どれがどの程度修理が必要になるかを見てもらい、きちんと実績として残しておくべきかと反省している。

【桑山委員】

高田西小学校後援会で色々事業をしていると思うが、和太鼓の割合はどうなっているか。

【提案者】

後援会費は年間80万円余り。その中で太鼓については約10万円。その他に金管演奏もしているため、金管の修理代についても同じくらい。80万円のうちの8分の1程度、10万円が金谷山太鼓の修繕、維持管理費となっている。

【高橋委員】

提案書について、団体等の名称が小学校後援会。会計の収支決算が45万1,000円。これと合わない。後援会の収支決算が45万1,000円しかないのか。

【提案者】

違う。

【高橋委員】

後援会の名前で提案が出ているなら、後援会の決算書の数字を提案書に載せてもらわないと、我々は納得できない。実際に後援会に余裕があるのかどうかを比べてみようがない。毎年提案が出てくるが、それがないとできないのか。この事業が市長の一言でなくなる場合がある。そうなればどうするか。後援会のお金が決算でどのくらい残っているのかをここに書いてもらわないと、我々も判断できない。

【提案者】

後援会費について書類の不備があった。申し訳ない。口頭で申し上げてよいか。

【佐藤センター長】

わかるのであれば、口頭で。

【提案者】

後援会の決算は、収入額が86万865円。支出額が61万6,261円。

【高橋委員】

残高はいくらか。

【提案者】

残高は24万4,604円である。

【佐藤センター長】

質疑を終了。

— 提案者退席 —

採点を委員に依頼。

— 共通審査・採点シート 記入 —

整理No.13「金谷山太鼓 継承・振興事業」の採点を終了。

続いて整理No.8「金谷区飯支部の交通安全確保事業」について、提案者に説明を
求める。

【提案者1】

事業概要に基づき説明。

【佐藤センター長】

提案者の説明について、質疑を求める。

【齋藤委員】

今回提案者が多く、予算金額もオーバーしている。安全費と諸経費について、昨
年は安全費が2万2,400円、諸経費が一式ということだが、今回同じように出
ている。諸経費の一式とは何か、安全費とはどういうことか、説明をお願いしたい。

【提案者2】

業者に見積りを依頼したところ、このように細かく数字が出された。昨年もこの
ようにしてお願いした。諸経費の内容については具体的に聞いていない。安全費と
は、作業をする時に、交通誘導員が派遣会社から来て現場の交通の誘導をしてもら
う、その人に払う賃金のこと。安全費という名前になっているが、交通の支障にな
らないように、現場で事故が起きないように立っている、誘導員の賃金である。

【齋藤委員】

私も、交通誘導ではないが交通安全協会の仕事をしている。それと重ねて理解し
てしまった。それとは違うのか。

【提案者2】

違う。

【齋藤委員】

例えば、皆さんがボランティアですることは可能か。

【提案者2】

それは違うと思う。

【齋藤委員】

どうしても入れなくてはいけないのか。

【提案者2】

警察から必ず誘導員を付けるように指導があった。

【齋藤委員】

諸経費というのが分からない。諸経費となると一切合切か。金額的に調整という形になった場合、この辺りを何とかできないものかと思った。金額を下げようと考えているわけではないが、細かい作業があった場合、それは可能かと思ってしまった。誘導員は代行できないのか。

【提案者2】

そのとおり。

【石野委員】

安全協会の事業収支を見ると、昨年度21万5,000円の残金が残っている。今回の提案では自己資金は400円しか使わないという形だが、こちらに回らないということは、今年度残金を使う予定があるのか。

【提案者2】

他の資材など、他に消費するものがたくさんあるため、そちらの方に使う予定である。

【石野委員】

構成員が35人というのは、役員だけか。

【提案者2】

14町内全体にまたがると相当数になるため、昨年もこのような書き方をした。それぞれの町内から出ている「委員の数が14町内で合計35名」という意味である。

【石野委員】

後援会費等の会費は、町内まとめてかもしれないが、各世帯からもらっている。

そうなる、総戸数が構成員ではないか。

【提案者2】

実際にはものすごい構成員の数であるため、代議員制にし、町内会長と委員によって構成されている。

【石野委員】

構成員のうち役員が35人なら分かるが、構成員として35人は表現の仕方が違うのではないか。

【提案者2】

そのとおり。構成員のところに役員として書かないといけなかった。もし構成員を書くなら、各町内の総数を全部上げなければいけない。

【石野委員】

今後そのように表記してもらいたい。

【桑山委員】

もしそこで事故があった場合、停止線は有効になるのか。

【提案者2】

事故がないように、するものである。

【桑山委員】

もし事故があった場合は。

【提案者2】

今のところそういった事故がなかったため答えられない。ただし、人間の心理として、今までなかったところに線が1本あるだけで、非常に動機付けになる。警察、市の市民安全課からも、それは利用者にとって大変大事なことだと指導を受けている。

【桑山委員】

私のところにも近くに線があるが、最近非常に交通量が多くなり、子ども達が危ないが、もし線を引いた後に事故があった場合どうなるのかと気になった。停止線が警察で有効だと認められるのか。

【提案者2】

警察でもそのように話しており、色々工夫して停止線で事故が起きないようにしている。他にも色々工夫している。最近グリーンのラインを引いたりしている。全くないよりはあった方がよい。それで事故が起きないようにと私は願っている。結果的に事故が起こった時、私はどうそれに対応するか考えていない。

【村田副会長】

今14町内会と言われたが、今年度該当するのが4町内である。14分の4しか今年度該当しないが、飯支部とすれば、本来であれば全体を見ていかないといけないという考え方もあると思うが、どうか。

【提案者2】

14町内の代議員にも諮り、各町内から要望を出してもらっている。今回は山麓線に直結する町内からこれだけ出てきたが、他の町内からはそういったものが全く上がって来なかった。それが実態である。本来はもっとあるのだが、かなりカットされた。

【佐藤センター長】

質疑を終了。

— 提案者退席 —

採点を委員に依頼。

— 共通審査・採点シート 記入 —

整理No.8「金谷区飯支部の交通安全確保事業」の採点を終了。

続いて整理No.1「金谷地区児童のスポーツ振興及び子どもの健全育成を図る事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

事業概要に基づき説明。

【佐藤センター長】

提案者の説明について、質疑を求める。

【吉村委員】

JMBサザンカップは、あなた方が主催者か。

【提案者】

そのとおり。

【吉村委員】

何チームくらいあるのか。

【提案者】

昨年は8チーム、男女合わせると16チームある。

【吉村委員】

主催運営をするのか。

【提案者】

そのとおり。

【吉村委員】

ビブス整備は、パンツだけを買うのか。上下セットではないのか。

【提案者】

昨年度は地域活動支援事業でビブスの上を買った。今年度ズボンを買うと、ユニフォームの代わりにビブスで参加することができる。ユニフォームは前回更新してから11年経過し、かなり劣化が進んでいるため、ビブスと交代で使っていただけると考えている。

【石野委員】

サザンカップについて、主催がそちらの会になった場合、参加する他のチームから参加費はもらっているのか。

【提案者】

1チームあたり2,000円の参加費をもらっている。

【石野委員】

当会がそれ以上の5万1,900円を負担するというのは疑問だと思うが。

【提案者】

去年は20周年ということで、とても大きな大会を開催した。県外からも多くのチームを呼び、賞状やトロフィー、楯、各チームの個人優秀選手賞などのメダルも用意した。今年もそのようにしたいと考えている。

【石野委員】

私が言いたいのは、参加費が安すぎるということである。参加チームである程度均等に割り、最終的に決算するのがよいのでは。1チームだけに負担を押し付けるのはおかしい。

【提案者】

大会に行くと、大体2～3,000円、多い時は6,000円ということもあるが、今回だけでなく、繋がりを求めている。実際秋などに大会があり、遠く県外からも呼んでいる。その時は、宿泊などのお金を払ってもらっている。

【竹内委員】

事業の収支関係だが、保険料や救急薬品など、子ども達を育てるためのものは、地域活動支援事業に応募するのではなく、予めチームとして揃えておくべきお金ではないか。ここで応募するのは、チームを作る上ではおかしいと感じるが、どうか。

【提案者】

月謝を、1,500円というわずかなお金だが、皆さんからもらっており、登録料、保険料、各種大会の参加料に使っている。それだけでは、私たちの自主財源では足りないため、備品購入が困難になっている。ぜひお願いしたい。

【竹内委員】

保険料や救急薬品など、本来チームとして必要なものを、なぜ市の補助事業で対応するのか。チームを作る時に、子ども達の安全を考えなければならないため、それだけのお金が必要だとしなくては。全部駄目となったらどうするのか。保険料も払えない、救急薬品も買えないではまずいのではないか。チームを作っているのであれば、そのお金くらいはチームの中で準備したらいかかか。

【提案者】

実際、大会に行ってお金も多くかかっている。スポーツ人口もバスケットボールに関しては減っている。お金を集めればよいと分かっているが、毎週土日に大会に出て、その都度皆さんから月謝以外のお金を集めている。

【村田副会長】

もし次年度もあるようだったら、今指摘を受けた保険代、救急薬品を削除して、助成率を100パーセントにしてほしい。誠意のある、助成率80パーセントなの

で。そうすれば、そういった話は出てこないと思う。

【土屋委員】

会場使用料が入っているが、どこで大会を開催しているのか。

【提案者】

昨年度は三和体育館を借りた。今年度は清里スポーツセンターを借りた。

【土屋委員】

県外とはどのあたりのチームか。

【提案者】

富山、長野西部など。県内では新潟市。市内は去年呼ばなかった。

【佐藤センター長】

質疑を終了。

— 提案者退席 —

採点を委員に依頼。

— 共通審査・採点シート 記入 —

整理No.1「金谷地区児童のスポーツ振興及び子どもの健全育成を図る事業」の採点を終了。

続いて整理No.4「滝寺自然公園整備と環境保全・保護活動事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

事業概要に基づき説明。

【佐藤センター長】

提案者の説明について、質疑を求める。

【吉村委員】

まちづくり協議会というのは、町内会とは違うのか。

【提案者】

町内会自体ではない。

【吉村委員】

農家組合でもないのか。

【提案者】

農家組合でもない。

【吉村委員】

そうすると、滝寺地内の全戸が参加しているわけではないのか。

【提案者】

全戸ではないが、ボランティアの公募は全戸にしている。行政区ではない。協議会として独立している。

【吉村委員】

構成員が400人になっている。これはどこからどこまでなのか。

【提案者】

町民が全員構成員で、誰が参加しても構わないという考えで数えている。

【吉村委員】

まちづくり協議会には会費みたいなものはあるのか。

【提案者】

ない。キノコ栽培と試食会については、慰労会を兼ねて収穫祭をしており、その慰労会分は町内で負担している。

【吉村委員】

人夫賃や機械損料などで発生する諸経費は、全てボランティアか。

【提案者】

人件費はボランティアである。機械の借料として、草刈り機は1日500円。ほとんどボランティアである。

【吉村委員】

それはどこから支出するのか。

【提案者】

自分の機械を持ち込んでいる。

【吉村委員】

1日500円の損料はどこから出すのか。

【提案者】

この他に町内から補助金というか、予算を若干もらっている。その中から、機械の損料だけは出している。

【石野委員】

昨年の実績を見ると、それぞれの活動は草刈りなど色々あるが、大体10人前後の参加人数である。それはほとんど同じ人が出ているということか。

【提案者】

そのとおりだが、絶えず募集はかけている。実際動いているのは最大で15人くらい。少ない時は7、8人で行うこともある。

【石野委員】

この会の趣旨は、まちづくりという部分。滝寺の町内の色々な人が参加してもらうなど、そういったことも今後目指してほしい。

【提案者】

もちろん私たちもそう願って広報するが、日曜日の作業ということもあり、農家は仕事があるため、ほとんどは一般の、団地の方の参加となってしまう。

【伊崎委員】

昨年の11月に行われた試食会は参加人数30名とあるが、そのうち若者の世代の参加はどの程度か。

【提案者】

労働してもらっている人は全員参加している。広報を町内に流すため、子どもは10人くらいいた。一緒に親御さんも来た。実際汗を流しているのは15人、町内でバックアップし、それ以外は20人くらい。

【伊崎委員】

愛の風公園は素晴らしい施設であるため、そういった家族、若い世代がより参加しやすいイベントなどを、大きくしてもらいたいと期待している。

【提案者】

町内では健康ウォークをしている。それで町内を回るため、私たちがボランティアで作業したところは、極力広報しながらウォーキングをしている。

【佐藤センター長】

質疑を終了。

— 提案者退席 —

採点を委員に依頼。

— 共通審査・採点シート 記入 —

整理No.4「滝寺自然公園整備と環境保全・保護活動事業」の採点を終了。

続いて整理No.9「金谷フェス～BMX・音楽・食・アートの融合～事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

事業概要に基づき説明。

【佐藤センター長】

提案者の説明について、質疑を求める。

【土屋委員】

事業については、どんどんしてもらいたいと思う。もし7月29日が雨の場合はどうなるのか。

【提案者】

事前に何度も協議して、雨が降ると大変という話はしている。実際今回の提案書では、雨でもできる形で提案している。事業を全部するのは難しいと思うが、できる部分だけをしていく形にしようと思っている。1番問題になってくるのが、雨の日にレースをするとコースが非常に荒れてしまう。その整備が非常に大変になってしまうため、事業費の中にそういった部分も組み込んだ。万が一、雨が降っても、過去にも雨の日の泥んこレースという形で、レースをしたこともある。晴れるに越したことはないが、雨でもどうにかして行うように工夫している。

【吉村委員】

BMXのコースの管理者は誰か。

【提案者】

市の観光振興課である。

【吉村委員】

使用料は発生するのか。

【提案者】

公共施設であるため発生しない。ただ、レンタルバイクを使用した場合、1時間200円かかる。自分も始めたきっかけは、レンタルバイクがあったため、小学4年生の時にそこで走った。

【吉村委員】

雨降りのレースだと、コースが荒れる。そのせいだと思うが、レース後の整備費用18万3,600円を計上している。無料で借りる代わりに整備するのか。市が管理ではないのか。

【提案者】

観光振興課に問い合わせた。お祭りをすることは、全然構わない。使用料はかからない。ただ、雨の日にレースを行ってもよいが、市の条件が原状復帰。晴れても雨が降っても、コースが荒れた場合、よりよい形で市に戻すということで、費用を組み込ませてもらった。

【石野委員】

レース後の整備費用が予想以上にかかり、かつ運営費が40万円も集まらなかった場合、差額分はどうするのか。

【提案者】

過去のデータに基づいて40万円と出しているが、もし40万円が集まらなかった場合、交通整理を地域活動支援事業費から出しているが、人件費に関しては地域活動支援事業費から出せないため、MCを頼んだり、有償ボランティアも何人か呼びたいと思っているが、そういった方たちはレースの出場料から、自分たちの自己資金という形で行いたいと思っている。

【石野委員】

私が聞いているのは、赤字になった場合の補てん先である。2つの協会が共同で作った会だが、それぞれが持ち合うのかどうかということである。

【提案者】

出場者が全然集まらなければ赤字になると思うが、そうしたらスタッフを削り、人件費の部分をゼロにするしかない。もう1つは、上越バイシクル協会がメインで

レースをしようと思っているが、今までの蓄えがある。1回レースを開催するに当たって負担しなければならない部分があり、それがレースの出場者により最終的にプラスになったりマイナスになったりする。万が一マイナスになってしまっても、20年間歴史のある団体であるため、1回分の大きなレースはできるよう蓄えている。もし今回そうなっても、それで仕方ないと話しているため、大丈夫と考えている。

【村田副会長】

今回募集の11件のうち、2番目に助成率が低い、65パーセント。実に誠意あるところと個人的に考えているが、来年以降この事業は確実に実行される見通しがあるのかどうか。定着させていきたいという願望のみか。1回だけだと価値が減少するような気がする。その辺の見通しを、具体的に答えてほしい。

【提案者】

私は金谷山が本当に大好きである。実家が金谷区にあるため、将来的には金谷区に戻ってこようと思っている。自分が育ってきた金谷山は、現状だと盛り上がりには欠けていると思っている。自分もようやく大人たちが自分の話を聞いてくれる年齢になった。こういった活動は1つの活動に過ぎず、本当はもっと金谷山で大きなことをやっていきたいという夢がある。自分の人生をかけてでもやっていきたいと思っているくらい、自分は金谷山を愛しているため、一生懸命やっていきたい。

【齋藤委員】

立派なBMXのコースがあり、国内の大きな大会が色々あるようだが、なかなか目にすることはない。地元で開催というのはあまりないのか。他の大きなところで開催し、地元の金谷山はあまり使わないのか。

【提案者】

金谷山のコース自体は毎月、今週の日曜日にもあるが、定期戦という形でレースは行われている。年に1回ジャパンシリーズという形で、日本の全国大会が行われている。ただ、専門の選手が集まるようなレースで、一般にも告知はしているが、まだまだ一般の方の来場者が少ない。そのためには、食、音楽、フリーマーケットなどを融合させることによって、一般の人がもっと来て、「金谷山のコースって、こ

んなすごいコースがあったんだ」と、実際に見てもらえるきっかけづくりになると思っている。実際今もレースを行っているが、もっと地域の人たちを巻き込んだ活動をしていきたいと思い、今回提案した。

【齋藤委員】

色々と大きな大会があるのだろうが、地元の盛り上がり、参加が少ないと。BMXの関係で2つの協会があるが、協会自体がそういったことを企画、実行したことはあるのか。

【提案者】

レースとスクールを定期的に行っている。ただ、このような形で、お祭りのように皆さんが来られるものは、ここ数年はしていなかった。自分が小学生の時に、チャレンジカップという形でお祭りの大会があり、太鼓を誘致したり、高田西小学校の金谷山太鼓があったり、ダンスやよさこいの披露などもあった。ただ、自分が大人になり、ここ10年くらいそういったイベントはしていない。当時の金谷山を知っている全国の人たちから、「あの時の金谷山の盛り上がり方がすごく楽しかったから、またやってほしい」と言われており、今それをできる側の立場になった。

【吉村委員】

質問ではないが、自己資金がゼロである。一生懸命営業して、企業協賛をもらってお金を集めないといけない。また、ものすごくお金がかかると思うが、ゲートなどを作る会場設営費がない。企画書が少し荒い。だが、大いに賛成している。若い人が騒ぐのはよいことなので、頑張ってもらいたい。

【提案者】

この見積書は安い。すごく抑えている。最初にイベント会社でこういったイベントをしないと提案した時は、会場設営費だけで120万円くらいの見積りが来た。これでは地域活動支援事業では無理だと思い、どうにか開催できるよう削った。

【佐藤センター長】

質疑を終了。

— 提案者退席 —

採点を委員に依頼。

— 共通審査・採点シート 記入 —

整理No.9「金谷フェス～BMX・音楽・食・アートの融合～事業」の採点を終了。

続いて整理No.6「金谷区（灰塚駐在所管内）の交通安全確保事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

事業概要に基づき説明。

【佐藤センター長】

提案者の説明について、質疑を求める。

【齋藤委員】

私は、交通安全協会は飯支部である。飯支部はグリーンのものがあるが、そういったものは今ないのか。

【提案者】

そのとおり。

【齋藤委員】

飯支部については、負担金を各町内からもらっている。それでは足りないため今回こちらを利用したのだろうが、灰塚支部として、町内の負担金などの財源はどうなっているのか。

【提案者】

うちは13町内あるが、車両割という形でお金を任意でもらっており、それが40万円ほどいただいている。上越市の交通安全協会からは、一時期は年間7万円ほどもらっていたが、免許更新時の交通安全協会加入者がだんだん少なくなり、現在は2万2,000円をもらっている。これは戸数割と、恐らく加入者割になっている。飯支部は恐らく三千世帯くらいあるため、交通安全協会は、私たちよりはお金を多めに持っている。

【齋藤委員】

車両割とは何か。

【提案者】

普通車は750円、軽自動車は500円、大型車はもっと高い。

【齋藤委員】

車両ということは各家庭で持っている車か。

【提案者】

1軒のうちで5台あっても、最低限でもよいとしている。強制ではないため、気持ち程度をいただいております、交通安全の活動資金をお願いしている。

【齋藤委員】

車1台につき、いくらということで。

【高橋委員】

40万円くらいの収入とのことだが、提案書には収入70万円、支出56万円とあるが。

【提案者】

昨年の地域活動支援事業補助金を加えて計算しているため。

【吉村委員】

役員の数は何人か。

【提案者】

支部長、副支部長、会計、これが役員。あとは監査が2人、町内監査が黒田小学校区11町内で11人、それから高田西小学校区、金谷町内と神山町内の2町内で13町内。それから女性部があり、灰塚と向橋の女性2人。計18人。監査を入れると20人である。

【吉村委員】

交通安全運動などの立哨に立っているのは、大体役員か。

【提案者】

そのとおり。足りない場合は監査をお願いするが、大体間に合う。

【吉村委員】

50着ベストを揃えるのは、多いのではないか。

【提案者】

30着くらいにしようかと思ったが、いつ地域活動支援事業がなくなるかわからないので、今回提案させていただいた。

【吉村委員】

今回、予算額をオーバーしている。

【提案者】

黒田小学校の交通安全で自転車教室が5月31日にある。高田西小学校でもあるが、その時に町内の役員に貸出しできる。ネームは上越市ではなく、上越交通安全協会灰塚支部と入れてもらう。

【佐藤センター長】

質疑を終了。

— 提案者退席 —

採点を委員に依頼。

— 共通審査・採点シート 記入 —

整理No.6「金谷区（灰塚駐在所管内）の交通安全確保事業」の採点を終了。

全ての事業の審査が終了、採点シートの見直しを依頼。

— 採点シート 回収、集計 —

— 60分休憩 —

【佐藤センター長】

会議を再開する。

採点結果を説明する。

- ・基本審査で「適合しない」が過半数：整理No.7、No.10
- ・優先採択審査で「該当しない」が過半数（その他の事業）：なし
- ・共通審査において得点が半数の200点未満：なし
- ・共通審査の委員採点で得点が多い順に順位づけ
 - 1番 整理No.5 里道（旧後谷線）の整備事業 352点
 - 2番 整理No.3 金谷区全域の防犯灯のLED化による住民の安全安心事業
349点
 - 3番 整理No.12 灰塚地区地域安全見守り事業 324点

- 4番 整理No.9 金谷フェス～BMX・音楽・食・アートの融合～事業
320点
- 5番 整理No.6 金谷区（灰塚駐在所管内）の交通安全確保事業 308点
- 6番 整理No.13 金谷山太鼓 継承・振興事業 304点
- 7番 整理No.2 正善寺ダム周辺の紫陽花の維持管理及び水質保全と環境美化
事業 297点
- 8番 整理No.1 金谷地区児童のスポーツ振興及び子どもの健全育成を図る
事業 295点
- 9番 整理No.11 幼年野球活性化事業 285点
- 10番 整理No.4 滝寺自然公園整備と環境保全・保護活動事業 284点
- 11番 整理No.8 金谷区飯支部の交通安全確保事業 279点

順位、変更できないことを確認。

6番までは予算配分内、そこから下は全て予算配分額を超えている。

採点結果に基づき「採択審査」の進行を高宮会長に求める。

【高宮会長】

審査の結果に基づき、採択事業の検討を始める。

採択する事業や補助金の配分方法などについて意見を求める。

【村田副会長】

前回会議の全体討議の中で、全部採択されて予算をオーバーした場合どうしたらよいかと話した記憶がある。その時、高橋委員から、委員提案の事業については、減額を考えることは可能だという提案をもらった。あわせて今回最高得点を取った事業、この2つの事業について、減額することはできるだろうという話をもらっていた。7番から下の事業を全部不採択とすることは、個人的には忍びないという思いが強い。2つの事業に100万円の減額をお願いする方法が1つあると思う。この方法で、2団体に考えてもらえないかという気持ちである。あとは皆さんの意見を伺ってほしい。

【高橋委員】

それでよいが、私があの時言ったのは、100万円以上の事業である。100万

円以上はもう1つあるだろう。

【村田副会長】

もう1件ある。だから3つ。では、100万円以上の事業3つに減額を要請するというやり方が1つある。

【佐藤センター長】

2つでは。

【高橋委員】

100万円以上のもう1つは、基本審査で適合しなかった事業である。

【石野委員】

村田副会長の話だが、前回会議の中で高橋委員と私が言った部分は、参考程度だと思ってもらえたら幸いである。なぜかという、その時はどこが不採択になりどう変わってくるか分からなかったことと、私と高橋委員で減額が可能だと言ったことを鵜呑みにするのではなく、全申請団体に対して同じことをして、公平な金額にするべきではないかと思う。金額が多い少ないという部分だけでない。方法としては、上から順番に満額採択する方法と、一律に、10パーセントなら10パーセントで落としていく方法が一番公平なのではないか。それで事業ができない団体があれば、予算が増えるということではないか。

【村田副会長】

いずれにせよ、そういった意見を出してもらい、最終的には決を採るということに対応するのがよい。

【石野委員】

なぜこのような点数付けをしたのか、ということ。全部合格だったら、点数付ける必要はない。その辺を皆さん考慮してもらいたい。

【村田副会長】

今平均で減額すると何パーセントになるか。

【齋藤委員】

基本審査で2件不採択になり、残りのオーバー分が100万円ちょっとである。それを一律で減額してしまうと、少ない額の事業は大きな影響が出るため、上位か

ら半分くらい減額にしたらどうか。

【吉村委員】

それでは、何のために順位付けしたのか。上位にいる事業は、公共性などの項目で、それなりに評価されたということである。

【齋藤委員】

私もそれなりに評価をしている。総計を取ってこのようになったが、それに固執するのはいかがか。一つの案である。

【小林主任】

全ての事業を一律の割合で減額する場合、およそ10.6パーセント減額になる。

【齋藤委員】

例えば、上位から何件か減らしていけば、下位の額の少ない事業にも何とか予算がまわる。なかなか難しい。

【竹内委員】

順位で、6番までで決まりだとする。

【高橋委員】

順位で6番までとするのが一番簡単である。1番、2番の事業だけで100万円減額となると、私たちは反対しなければならない。

【西条委員】

上位であるため、減らすわけにはいかない。

【高橋委員】

減額は多少できるが、そのような大きな金額を減額してもよいとは言っていない。

【西条委員】

10.6パーセントで減額したらどのくらいになるか、計算したらどうか。

【高橋委員】

減額は可能だが、100万円も減額とは、私は返事できない。15パーセントなら15パーセントでもよいし、20パーセントくらいならまだ我慢できる。

【石野委員】

10パーセントでも大きい。活動を2つやめないとできない。看板が1番のメイ

ンだと思っていたが、これもできなくなってしまう。

【高橋委員】

昔の方法で、6番目で線を引けば終わり。

【永野委員】

それが一番簡単

【吉村委員】

そのために順位を付けた。

【高宮会長】

それが一番公平であると。

【高橋委員】

それが公平だと思う。

【石野委員】

過去の例もそうだった。平成26年だったか、一番最後で金額を切った。

【西条委員】

去年は運よく全て収まった。

【村田副会長】

過去は分からないが、委員の皆さんがこの11件を全て認めてあげたいという気持ちになるかならないか。6番で切るという方法にすると地域協議会で決まれば、それはそれでやむを得ないが、順位により6事業しか採択せずあとは不採択とするという方法と、減額率を全部一定にして全ての事業を採択する方法と、それから最初に私が言ったように、高橋委員と石野委員の所属する団体にお願ひできないかという方法と、3つある。皆さんがどういった気持ちになるかということではないかと思う。

【高橋委員】

その2つの事業の人しかいなかったためそうなった。他の事業の人はいなかった。

【石野委員】

あれは単なる参考意見である。

【村田副会長】

単なる参考ではない。私たちはまともに取っている。あの時に、こういった姿になる、減額をしなければならないときちゃんと想定している。その時、高橋委員に話をし、高橋委員が石野委員にも話をした。

【石野委員】

今日の点数の結果を見て言ったわけではない。

【村田副会長】

そのように私たちは考えている。

【石野委員】

いるといっても1人か2人だろう。全員がそう思っていない。

【村田副会長】

それで決を採ればよい。皆さんが、6番でカットして、全部は救わないと。

【高橋委員】

それは今までのやり方である。

【村田副会長】

11事業を全て救ってあげるために、一定の減額率を掛けるという方法と、石野委員と高橋委員の所属する事業で100万円以上減額する方法と、3つの方法がある。その3つの方法で決を採ってやればよい。

【永野委員】

高橋委員提案の事業を全額とした場合、来年度は恐らく提案が出てこない。そうすると、少し厳しいが、こういったランク付けをしたのだから、6番で切り、そして下位の事業は残念だが、次年度に提案してもらったらどうか。

【高宮会長】

そうすると、1番から6番までを採択するのみで終わりにするということか。

【永野委員】

そのとおり。この中には、次年度に提案されない事業も何件かある。

【高橋委員】

私の提案事業は、来年度はない。

【川住副会長】

例えば、7番のような継続してきた事業は、今年で途切れてしまう。全額補助金でしようとしている。継続性から言っても、続けてもらわないと、冬囲いもできないという問題が出てきたときに、それでよいのかと思う。そのため、順位で採択するのもよいが、ある程度継続性を配慮し、残すべき事業があると思うが、いかがか。

【西条委員】

川住副会長の意見をくむと、一律減額するのが落としどころ。得点が高い事業だけをお願いというのは、この場に高橋委員と石野委員がいるため言える話であり、そうでない事業で何百万円の事業が、金額が多いために100万円減額というのは、「我々は点数が高かったのになぜ」となる。村田副会長の意見も採用するのであれば、「今年は予算がこれだけオーバーしていた。順位で切るという話も出たが、何とか皆さんに少しでも」と説明する。それでも何か言われたら、我々は責任を持ってない。

【村田副会長】

それでも、全て採択される。

【西条委員】

そのとおり。

【高橋委員】

2つの事業が不採択になった。次の日に事務局から提案者に電話をしたと思うが、その日に私は会っている。ものすごい不満を言われた。齋藤委員もいた。

【齋藤委員】

また来年も出せばよいと言ったが、来年はもう出さないと怒ってしまった。

【高橋委員】

それはそれで仕方ない。

【西条委員】

私はそういった人たちと会わなかった。

【吉村委員】

一定のルールに則っていれば、そういったことは当然起きる。

【高橋委員】

少々来ても、私は相手をさせていただく。

【齋藤委員】

プレゼンテーションを一生懸命して、我々も質問したりした。一律で減額する場合、例えば20万円の10パーセントだと2万円で、400万円となれば40万円になってしまう。それもあるが、10パーセントくらいであれば可能かと思う。私は、11件全て救ってあげたいという気持ちがある。

【牛木委員】

一律に減額した方がよい。川住副会長のとおり、みんな一生懸命やろうという気持ちがあると思うし、10パーセントであれば問題ない気がする。

【山口委員】

点数配分も考慮した計算式を出してみたらどうか。

【伊藤委員】

時間がかかると思うが、それもしてほしい。

【吉村委員】

総額を総得点で割れば、1点当たりの金額が出る。そして得点を掛ければよい。

【高橋委員】

10.7パーセント減額となると、石野委員の関係する事業は大丈夫か。

【石野委員】

計画の一部をやらないようにするしかない。

【高橋委員】

同じことをしろと言われてもできない。灯数を減らさないと。石野委員がよいというのであれば、11パーセントくらいであれば私の事業もそれでよい。

【石野委員】

上位から補助率が下がって行けば、より公平である。

【高宮会長】

11件全て採択し、10.7パーセントの減額をするという意見が多くなっているようだが、決を採るか。

【山口委員】

減額は点数を考慮するのか、一律であるのかも、採決しないと。

【高宮会長】

点数を考慮するとは。

【山口委員】

総得点分の獲得得点の比率を掛けて按分すればよい。

— 減額方法について検討、計算 —

- ・各事業の得点をそれぞれ全事業の得点の合計（総得点）で割る
- ・求められた数字で1を割り、各事業の減額率を算出する
- ・各事業の補助希望額に減額率を掛けて減額する額を算出し、補助希望額から減額する
- ・減額後の額の合計が予算配分額を超えたため、予算配分額に収まるよう、各事業の減額後の額に、予算配分額を減額後の額の合計で割った数字を掛け、補助額を算出する
- ・補助額は千円単位になるため、百の位を四捨五入する
- ・四捨五入後の額の合計が予算額を1千円超過したため、順位1番の事業から1千円減額し調整する

【高宮会長】

基本審査で不採択となった事業を除く全ての事業を採択し、採択する事業の補助額は、検討した方法で減額した額とすることでよいか諮り、委員全員の了承を得る。

【佐藤センター長】

- ・採択する事業の補助額について確認
 - 1番 整理No.5 里道（旧後谷線）の整備事業 219万円
 - 2番 整理No.3 金谷区全域の防犯灯のLED化による住民の安全安心事業
421万3千円
 - 3番 整理No.12 灰塚地区地域安全見守り事業 13万3千円
 - 4番 整理No.9 金谷フェス～BMX・音楽・食・アートの融合～事業

6 7 万 7 千 円

5 番 整理No.6 金谷区（灰塚駐在所管内）の交通安全確保事業

1 7 万 7 千 円

6 番 整理No.1 3 金谷山太鼓継承・振興事業 2 0 万 9 千 円

7 番 整理No.2 正善寺ダム周辺の紫陽花の維持管理及び水質保全と環境美化事業 1 1 万 2 千 円

8 番 整理No.1 金谷地区児童のスポーツ振興及び子どもの健全育成を図る事業 1 7 万 6 千 円

9 番 整理No.1 1 幼年野球活性化事業 1 3 万 円

1 0 番 整理No.4 滝寺自然公園整備と環境保全・保護活動事業
2 1 万 9 千 円

1 1 番 整理No.8 金谷区飯支部の交通安全確保事業 2 6 万 4 千 円

【高宮会長】

提案者への附帯意見を求める。

【村田副会長】

減額の計算方法について、提案者に明確に示してほしい。

【佐藤センター長】

審査・採択結果一覧には載せられない。

【佐藤係長】

他の区では、減額しても必ず事業を実施すること、といった附帯意見を付けた。

【川住副会長】

そのような附帯意見を付けるのがよい。

【高宮会長】

採択する全ての事業について、減額した補助額で確実に事業を実施する、といった附帯意見を付けることでよいか諮り、委員全員の了承を得る。

—次第4 事務連絡—

【高宮会長】

次に、次第4「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

- ・地域活動支援事業は採択結果を受け、速やかに交付決定を行う
- ・金谷区の地域団体との意見交換会

6月20日（水）午後6時30分～

福祉交流プラザ 第1会議

- ・第4回地域協議会 7月25日（水）

【高宮会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課

南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831（直通）

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。